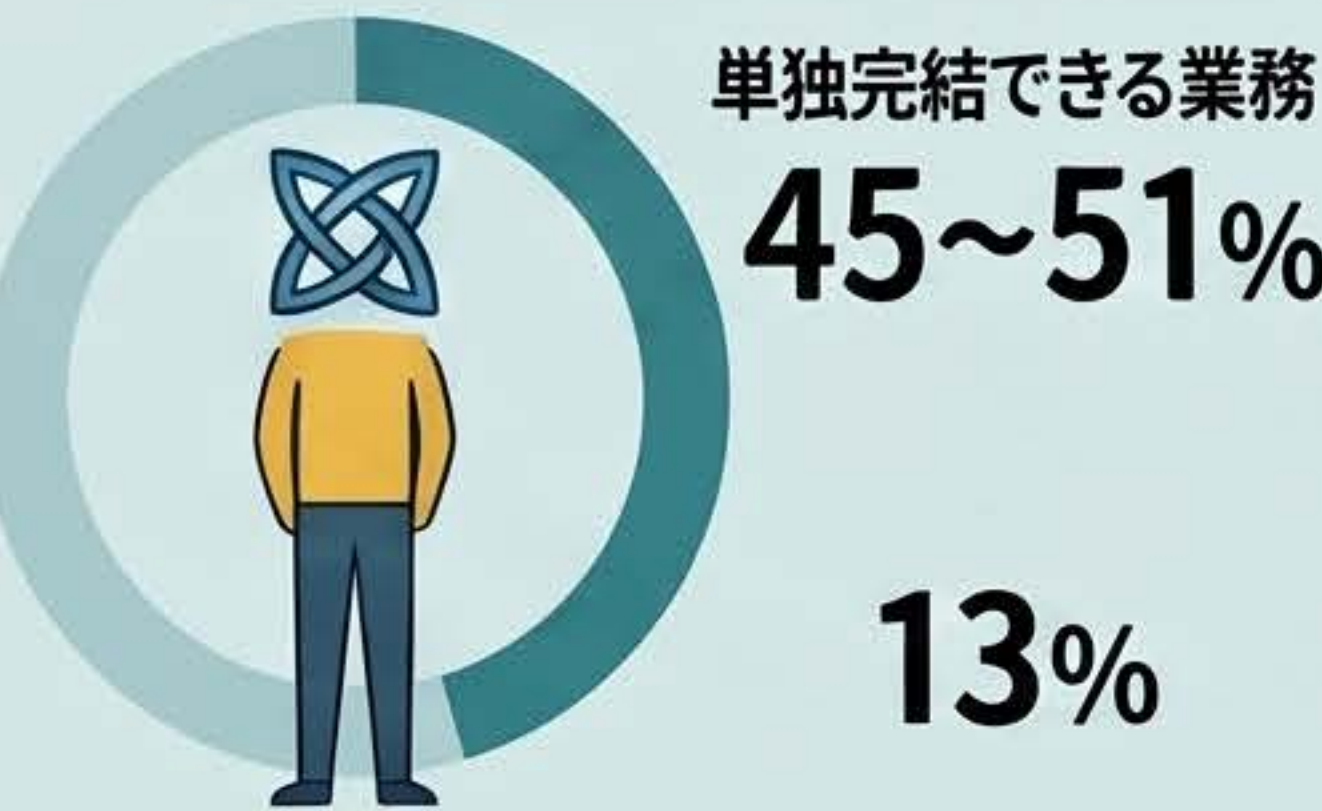


AI時代の「トップ5%社員」の新常識：成功を追わず、失敗を削り落とす

AI普及期、従来の「成功事例の模倣」や「個人の処理能力」に頼るスタイルから、AIとEQ（感情知能）を駆使して「失敗確率を最小化」するスタイルへの転換。

思考のパラダイムシフト：成功分析から「失敗の排除」へ



思考のパラダイムシフト：
成功分析から「失敗の排除」へ
個人の処理能力（IQ）に頼るモデルは限界を越え、周囲を巻き込む力が不可欠に。



「成功事例」よりも
「失敗構造」に着目する
環境依存の強い成功事例を追うより、再現性の高い失敗要因を排除する方が確実。

プリモーテム
（事前死因分析）で
リスク検知を30%向上
「将来失敗した」と仮定して原因を洗い出し、認知バイアスを解除して安定した成果を出す。



従来型
（一般社員）



他者の
成功事例の横倣



主な
分析対象



自他の失敗事例の
構造的要因



作業時間の
短縮ツール



AIの位置
付け



反証講義・
失敗確率の
低減インフラ



正確な情報共有
（IQ主導）



他者との
関係性



感情共有・
深い観察
（EQ主導）

従来型
（一般社員）

AI時代の
トップ5%層

AIとEQの高度な活用術



平均2.5個のAIを使い分け
「クロス反証」を行う
複数のAIに自説を批判させ、論理的
欠陥（失敗の芽）を事前に潰し込む。



周囲を動かす「4.5cm深い
傾き」と「1分間の対話」
深い傾きで心理的安全性を高め、
相談は1分以内で要件を終えて信頼
を築く。



「反応」と「決定」を分離し、心理的味方を増やす
どんな意見もまずは感謝で受け止め、精査（決定）は
後から冷静に行うことで協力を引き出す。



冷静な精査